

協働による「生物多様性とくしま戦略」の推進

イベント参加者の満足度	98%
助成活動がメディアに掲載された回数	35回
活動の全体目標に対する達成度	100%



生物多様性とくしま戦略は何を目指しているのか

◆成果と工夫したポイント

●成果

1) フォーラム等参加者数当初予定を上回った。2) 人材育成プログラム実施回数 15 連続講座×2 年間(16 日間)、生物多様性リーダー認定者数 20 人。3) 県民参加型調査件数 1,635 件。4) webGIS 構築済み。

●工夫

環境市民団体のネットワーク組織「とくしま会議」内の連携と、徳島県との協働による生物多様性の推進を行った。

課題

1) 県民の生物多様性の認知度が低い。2) 外来生物の被害状況や分布状況の総合的な情報が得られないため対策が難しい。3) 生物多様性に関わるリーダーが不足している。

目標

1) 県民の生物多様性の認知度の向上。2) 外来生物の分布状況を総合的、かつ効率的に管理し、的確な対策の支援ができる調査と情報集積・発信のしくみ構築。3) 生物多様性の普及啓発に関わるリーダーの人材育成。

活動内容

1) フォーラム、サイエンスカフェ等開催による認知度の向上。2) 徳島県との協働による人材育成プログラムの実施と「生物多様性リーダー」認定制度の策定、及び人材育成プログラムの実施による「生物多様性リーダー」の育成。3) 生物多様性や生態系の把握に係わる県民参加型調査の実施。4) 携帯電話、webGIS による情報集積、管理、発信システムの構築。5) これら 1)～4) のハブとなる、とくしま生物多様性センターの設置。



ナルトサワギク
県民一斉駆除

達成できなかったこと

助成活動当初の目標は予想以上の成果で達成できた。今後、生物多様性の主流化をさらに推進するには、社会システムに生物多様性を普及啓発させる仕組みを作る必要がある。

今後の展望

とくしま生物多様性センターをハブとした、県民の生物多様性の認知向上と企業との協働による生物多様性の推進。